

2011年「3.11福島原発事故」後の新しい非核自治体宣言

1、東京都多摩市 2011（平成23）.10.24

多摩市非核平和都市宣言

多摩市は、この緑豊かな土地に生まれ育ち、あるいは全国各地から夢と希望を持った、多くの人たちが集まってできたまちです。私たちは、太陽の光あふれるこの多摩市で、穏やかな日々の生活を平和だと感じて暮らしています。

この暮らしのなかで、いつしか広島・長崎の記憶が薄れつつあり、世界には今もたくさんの核兵器が存在すると知りながら、平和は失われやすいことを忘れかけていました。

平成23年3月の東日本大震災と福島第一原子力発電所事故に、私たちは多くのことを学びました。自然の力に対する謙虚さを忘れ、人間の科学技術を過信していたこと。安全と言われていた原子力発電所から、ひとたび事故が起これば大量の放射性物質が拡散され、大事に育て築いてきたものが、たちまち奪われうることを。

私たちは、人と人との絆を大切にし、原子力に代わる、人と環境に優しいエネルギーを大事にしていきます。そして、戦争がなく、放射能被害のない平和な世界に向けて、みんなが笑顔で、多様ないのちがにぎわうまちを、多摩市から実現していきます。

現在、そして未来の子どもたちに戦争の悲劇と平和の大切さを伝え、他の都市とともに世界の人々と手をたずさえて、全ての核兵器の廃絶と平和な社会を求めるために、ここに多摩市が非核平和都市であることを宣言します。

平成23年10月24日

2、沖縄県石垣市 2011（平成23）.12.27

石垣市核廃絶平和都市宣言

私たち石垣市民は、第二次世界大戦の広島と長崎で原爆の恐ろしさ、悲惨さ、残酷さを知りました。

そして、沖縄戦や八重山戦争マラリアでは何十万人の尊い命が奪われたことも決して忘れてはいません。

私たち石垣市民は、地球上からあらゆる戦争やテロがなくなることを願い、全ての核兵器の廃絶と世界の恒久平和を希求します。

また、人類の存在を脅かす核兵器の開発につながる一切の核実験の禁止を切望し、同時に原発に頼らない社会を実現します。

私たち石垣市民は、次の世代も、またその次の世代の子どもたちも安心して住み慣れた土地で幸せに暮らせるよう核兵器廃絶を強く訴え、世界一平和で幸せなまちを目指す石垣市から「核廃絶平和都市」を宣言します。

平成二十三年（二〇一一年）十二月二十七日制定。

3、埼玉県鶴ヶ島市 2012（平成24）.03.30

鶴ヶ島市平和都市宣言

平成24年3月30日
市制施行20周年にあたり、「鶴ヶ島市 子ども議

が開催されました。子ども議会では、鶴ヶ島市の未来を担う児童代表により「わたしたちの平和宣言」が採択され、次のような誓いがなされました。

1 わたしたちは、一人ひとりの命と人権を尊重し、いじめや差別を絶対に許しません。

1 わたしたちは、地域の絆を深め、人を思いやり、助け合いながら地域活動に積極的に参加します。

1 わたしたちは、地域の人たちと協力して、犯罪や事故のない、子どもからお年寄りまで安心して暮らせるまちにします。

1 わたしたちは、自然を大切にし、緑を増やし、人と自然が共生できるまちにします。

1 わたしたちは、目に見えない「放射能」という怖さをもっている「原子力」のあり方について

なで考えていきます。

1 わたしたちは、戦争と核兵器のない、誰もが幸せに暮らせる平和な社会をつくります。

私たち鶴ヶ島市民は、この誓いを真摯に受け止めます。

平成23年3月の、東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故は、甚大な被害とともに、いくつもの教訓を残しました。

人は自然を支配できません。人はもともと自然と共に暮らしてきたのです。自然界に存在しない放射性物質の拡散が、私たちの命と暮らしをここまで脅かすということを、改めて思い知らされました。

地域の絆は、今を生きる力の源です。支え合うぬくもりの中から明日が生まれ、争いによって希望は失われます。最も悲惨な争いである戦争と全ての核兵器が地上からなくなることは私たちの願いです。

私たちの願いを込めて

4、岐阜県本巣市 2012（平成24）.05.01

本巣市非核平和都市宣言

（平成24年5月1日）

核兵器は、争いを増やし社会や自然を破壊することしかない、強大な暴力の象徴であることは誰もが知る事実です。

世界で唯一の被爆国である我が国は、平成23年3月の東日本大震災による原子力発電所の事故により、再び核による放射能汚染の脅威にさらされ、その恐ろしさを再認識することとなりました。私たちは、自然に対するつつましさを忘れてはならず、科学技術への過信を戒めなければなりません。

核兵器の恐怖におびやかされることなく、豊かな自然や歴史ある我がまちの貴重な財産を愛しみ、次代へ継承していきたいという願いは市民の総意です。

核兵器の廃絶と恒久平和を強く願い、世界に訴

非核脱原発平和都市宣言

平成25年3月28日

平和な世界の実現は、すべての人々の共通の願いです。

今なお、地球上では悲惨な争いがあとをたたく、加えて核兵器の存在は、世界の平和に深刻な脅威をもたらしています。

我が国は世界で唯一の被爆国であり、核兵器のすみやかな廃絶を強く訴えるとともに、戦争のない人類永久の平和が確立されることを願うものです。

平成23年3月の福島第一原子力発電所事故は、私たちに多くの教訓を残し、生活の豊かさ便利さを求めるあまり、自然に対する謙虚な姿勢を忘れ、科学技術を過信していたことに気づかされました。

自然の恵みに感謝し、地球環境に優しいエネルギーにより、穏やかで平和な暮らしが営める環境が創出されることを期待します。

私たちかすみがうら市民は、水と緑にはぐくまれた自然豊かな郷土を大切に守り、未来を担う子供たちと美しいふるさとのために、平和を願う地球上の人々と手を携え、世界の恒久平和を希求し、ここに「非核脱原発平和都市」を宣言します。

木古内町非核平和都市宣言

平成25年3月28日

戦争のない平和な世界と核兵器の廃絶は、人類の共通の願いです。

しかし、未だ武力による紛争が絶えることなく、核兵器の存在は全ての生命に深刻な脅威を与えています。

また、福島第一原子力発電所事故による大量の放射性物質の拡散で、私たち築き上げてきた多くの宝を失いました。

私たちが住む対岸で工事が進む大間原子力発電所の建設には、過去の悲劇を踏まえ無期限凍結を求めてまいります。

私たちは、全ての核兵器の廃絶と自然豊かな郷土を守り、恒久平和の実現を目指し、ここに「非核平和都市」を宣言します。

平成27年12月17日 第4定例会 可決